

Reprise du Festival International du film d'Hiroshima 2017
en collaboration avec la Cinémathèque française



Toute la mémoire de monde

広島国際映画祭 特別アンコール上映

シネマテーク・フランセーズ共同企画

「世界のすべての記憶」特集

2018年1月5日(金) ▶ 13日(土) @アンスティチュ・フランセ東京

Du 5 au 13 janvier 2018 à l'Institut français du Japon - Tokyo

ゲスト: 岡田秀則 (東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員)

柳下美恵 (サイレント映画ピアニスト)

廣瀬純 (龍谷大学教授、映画批評家)

結城秀勇 (映画批評家)

広島国際映画祭 (HIFF) では、2015年よりパリのシネマテーク・フランセーズと共同企画が開催されています。2017年には「世界のすべての記憶」と題されたシネマテーク・フランセーズの国際修復映画祭から6本の作品が紹介されました。アンスティチュ・フランセ東京では、好評につきこれらの作品をアンコール上映いたします。

フランス印象主義を代表するルイ・デリュックの作品『洪水』と『エルノアへの道』は、サイレント映画ピアニストの柳下美恵の伴奏で上映します。そのほか、アンドレ・アントワヌの1920年の幻の傑作『ツバメ号とシジウカラ号』、ルネ・クレールのユーモアあふれる日本未公開作『イタリア麦の帽子』、アベル・ガンスが3画面ポリヴィジョンで製作した『マジラマ/戦争と平和』、ゴダールが「映画史」について語る『セルジュ・ダネーとジャン＝リュック・ゴダールの対話』など、貴重な作品ばかりです。2018年のHIFFを待ち望みながら、これらの傑作を(再)発見して下さい!



ツバメ号とシジュウカラ号

L'Hirondelle et la Mésange d'André Antoine
[フランス/1920年/78分/モノクロ/デジタル]
監督:アンドレ・アントワヌ
出演:ジョルジュ・デノラ、ビエール・アルコヴェー、
リュス・ラベット



© L'hirondelle et la mésange, André Antoine, collections La Cinémathèque française.

二隻の船、ツバメ号とシジュウカラ号がベルギーのアントワープからフランスへと向かっている。船頭のビエールは、妻グリエとその妹マルテと共に船上で平穏な日々を送っていた。マルテは新しく雇った水先案内人のミッシェルに恋心を抱くが、ミッシェルは姉のグリエを誘惑し、三人のバランスが崩れてしまう。ちょうどその頃、ミッシェルはビエールが密輸しているタイヤの隠し場所を知ってしまう……。スタジオから抜けだし、田園風景、フランドル地方の商業都市セント、そしてそこに住む人々や俳優たちの表情を数台のカメラで様々な角度からみずみずしく捉えた本作は、10年後に撮られるジャン・ヴィゴの『アタラント号』の誕生を予感させる『河の映画』の傑作といえるだろう。

エルノアへの道

Le Chemin d'Ernoa de Louis Delluc
[フランス/1920年/50分/モノクロ/35mm]
監督:ルイ・デリュック
出演:エーヴ・フランシス、アルセーヌ・デュレク、
ガストン・ジャック



© Le Chemin d'Ernoa, Louis Delluc, collections La Cinémathèque française.

バスク地方の裕福な農民エチエールは美しいアメリカ人女性のマジェスティ・バーネルに夢中になる。しかし、マジェスティの夫は窃盗の罪で警察に追われており、エチエールに嘘のアリバイを強要するために妻に誘惑させていた。当初『アメリカ人』というタイトルで企画された本作は、デリュックが始めてロケで撮影した作品であり、この地方独特の光、熱を帯びたような官能的な雰囲気ドラマの中でうまく生かされている。ルイ・デリュックの2本の作品はシネマテーク・フランセーズによって保存されていた素材からCNCのデジタル政策の一環としてドキュモン・シネマトグラフィックによって、2015年に2Kに修復された。

洪水

L'Inondation de Louis Delluc
[フランス/1923年/87分/モノクロ/35mm]
監督:ルイ・デリュック
出演:エーヴ・フランシス、ヴァン・デル、
エドモンド・ダエル、ジネット・マディ



© L'Inondation, Louis Delluc, collections La Cinémathèque française.

ローヌ川沿いの静かな村。若く正直な農民のアルバンは美しいが移り気なマルゴと婚約している。町役場で働く父親に会いに来たジェルメーヌは、いつしかアルバンを深く愛するようになるが、婚約者のいるアルバンに拒絶されてしまう。ちょうどその頃、川からあふれた水が村を浸水し始め……。映画特有の美を追究したフォトジェニー論で知られるルイ・デリュックの遺作。注文作品でありながら、そこにはデリュックが好んだテーマ(よみがえる過去、恋愛の三角関係と幻滅、拒絶感と復讐心)が盛り込まれている。

イタリア麦の帽子

Un Chapeau de paille d'Italie de René Clair
[フランス/1927年/115分/モノクロ/デジタル]
監督:ルネ・クレール
出演:アルベール・ブレジャン、オルガ・チェホワ、
ゲモン・ヴィタル、ポール・オリビエ



美しいエレエヌとの結婚式へと馬車を走らせていたファディナルだったが、彼が鞭を拾っている間に馬が妻ら帽子を食べてしまう。中尉と違い引き中の帽子の持ち主は、帽子を取り戻せないと夫の待っている家に帰れない。二人は新婚夫婦の家にまで押しつけてきて「帽子を返せ!」と迫るのだが……。シネマテーク・フランセーズとサンフランシスコ無声映画祭の協力によって、2016年に4K修復されたルネ・クレールの4作品目の傑作コメディ。公開当時に付けられていた薄紫がかかった青と琥珀色も見事に再現されている。

マジラマ/戦争と平和

(三面ポリヴィジョン版)
Magirama (J'accuse)
d'Abel Gance, Nelly Kaplan
[フランス/1957年/57分/モノクロ/デジタル]
監督:アベル・ガンス、ネリー・カブラン
出演:ロバール・ヴァティエ



アベル・ガンスは『ナポレオン』(1927年)で初めて3画面の投影装置を試みたが、興行には困難であったため、再び試みるまでに30年を要した。中央の画面に主題を、その両側で伴奏のような画を映し出せるように「プロテラマ」(視覚的ポリフォニー)を構想。国立映画センターの支援を受け1956年によく「マジラマ」としてパリの映画館スタジオ28で上映された。1937年版『戦争と平和(原題:私は弾劾する)』の映像を使用しながら、あらためて第一次世界大戦をテーマとし、戦争の悲惨さを伝えられる形式を作り出そうとした。修復版は、『戦争と平和』のほかにノーマン・マクラレンの『色彩幻想』など4本の短編とで構成され、ガンスの助手であった映画監督で作家のネリー・カブランによって編集されている。

セルジュ・ダネーとジャン＝リュック・ゴダールの対話

Entretien entre Serge Daney et Jean-Luc Godard de Louis Delluc
[フランス/1988年/129分/カラー/デジタル]
監督:ルイ・デリュック
出演:エーヴ・フランシス、アルセーヌ・デュレク、
ガストン・ジャック



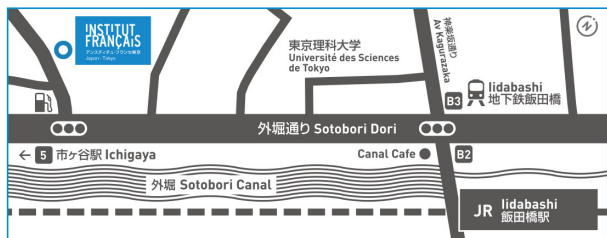
© Entretien Serge Daney / J.L.G., collections La Cinémathèque française.

おびただしい量の映像、声、音楽、文字のコーラージュによってゴダールの映画史観が展開される、全8章、約4時間半の大作『映画史』。その製作を始めた時期に、ゴダールと映画評論家のセルジュ・ダネーが『映画史』について語り合う。まるで観客が立ち合い人であるかのように、終始カメラは固定で対話を捉えていく。

Toute la mémoire de monde

Calendrier 上映スケジュール

1月5日(金)	18:30	ツバメ号とシジュウカラ号 (78分) *岡田秀則によるトークショーあり
	14:00	マジラマ/戦争と平和 (57分)
1月7日(日)	16:00	セルジュ・ダネーとジャン＝リュック・ゴダールの対話 (129分) *廣瀬純によるトークショーあり(聞き手:結城秀勇)
1月12日(金)	19:00	イタリア麦の帽子 (115分)
	13:00	洪水 (35分、87分) *柳下美恵によるピアノ伴奏つき
1月13日(土)	15:30	エルノアへの道 (35分、50分) *柳下美恵によるピアノ伴奏つき
	17:30	ツバメ号とシジュウカラ号 (78分)



プログラムはやむを得ぬ事情により変更されることがありますが予めご了承下さい。

*入場料金:一般:1,200円/学生:800円/会員:500円 *開場:各回15分前 *チケット販売時間:上映当日各回の30分前から上映開始10分後まで。全席自由、整理番号順での入場とさせて頂きます。なお、上映開始10分後以降の入場は、他のお客さまへのご迷惑となりますので、固くお断りいたします。

主催:アンスティチュ・フランセ日本 助成:アンスティチュ・フランセパリ本部
アンスティチュ・フランセ日本 映画プログラム オフィシャル・パートナー:CNC、笹川日仏財団、TV5 MONDE
特別協力:広島国際映画祭実行委員会 フィルム提供及び協力:シネマテーク・フランセーズ、CNC
プログラム企画:ポーリーヌ・ドゥ・レイモン(世界のすべての記憶、映画祭 アーティストックディレクター)、
機曾南菜子(広島国際映画祭 コーロップ顧問)

Copies restaurées par La Cinémathèque française (sauf Magirama (J'accuse))
organisé par l'Institut français du Japon
avec le soutien de: Institut français, CNC, Fondation Sasakawa, TV5 MONDE, Indie Tokyo
Merci à Hiroshima International Film Festival, la Cinémathèque française, CNC
Programme conçu par Pauline de Raymond (Directrice du Festival « Toute la mémoire du monde ») et Nanako Tsukitate (Conseillère Europe de l'IFFP)

会場:アンスティチュ・フランセ東京 エスパス・イマージュ
〒162-8415 東京都新宿区市谷船河原町15
tel: 03-5206-2500 fax: 03-5206-2501 www.institutfrancais.jp/tokyo
f アンスティチュ・フランセ東京 i institut_tokyo i institut_tokyo